

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	SORATO (UMIE) いなみ第二教室 ※BLOOMいなみ			
○保護者評価実施期間		2025年 10月 23日	～	2025年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間		2025年 10月 23日	～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間		2025年 10月 23日	～	2025年 11月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	11件	(回答数)	7件
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者を併設しているSORATOいなみ、UMIEいなみ、SORATOいなみ第二教室、UMIEいなみ第二教室を利用されている方のみとしているので、事業所間での連携が取りやすく、支援の方向性を訪問先と確立させやすいことが挙げられます。	今年度の6月より、同じ法人内で運営する事となった加古川市内にある事業所も、訪問支援の対象として検討しているので、対象者の幅を広げています。	当法人内で運営している事業所をご利用されている方が対象となります。同じ法人内だからこそできる連携があるので、それを今後も継続して更なる質の向上を目指したいと思います。
2	訪問先の方針に合わせて、直接支援の場や間接支援の場を臨機応変に変えながら対応していることが挙げられます。	訪問先のニーズにも耳を傾けて、その日の訪問先の職員配置やお子様の状況などを総合的に判断し、必要に応じて訪問先の先生方の業務も手伝いながら、支援や関わり方の提案をしています。また、訪問後は振り返りの場を設定し、担当の先生だけでなく、園長先生やコーディネーターの先生とも情報共有を行っています。	訪問先での躊躇は、事業所内でも同じように躊躇している部分もあるので、そういうところを片方だけで考えるのではなく、お互いが1人の理解者として、課題に対するアプローチの仕方などについて意見を出し合っているので、それを今後も継続していきたいと思います。
3	訪問先でも実施できそうな教材を提供したり、事業所内でうまくできている教材の情報を共有したり、訪問先でうまくいっている取り組みを事業所に持ち帰ったりと、統一した支援を図れることが挙げられます。	お子様が躊躇している課題に対して、ただ単に数をこなして経験してもらうのではなく、ゲーム性を持たせて楽しみながら教材に取り組めるように工夫しています。また、訪問先でも1つの教材から派生しやすいように、できるだけ手作りのものを準備するようにしています。	現在躊躇している課題に対しての教材の作成や準備、それらの情報共有を行っているが、その先を見据えた次のステージで躊躇可能性のあるものを先読みし、そこで苦手意識を持たないように事前に対処できるようなものを考案、提供できるようにしていきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の増員は必要不可欠だと感じています。 担当する職員が体調不良等になった場合、代わりに対応できる職員がないので、安定した支援、継続した支援が途切れてしまう可能性が考えられます。	専門的な知識を持つ人材や、経験豊富な人材が育ち切っていないことや、新たに職員を採用する余力が無いことが考えられます。	現場での経験や知識を持つ人材の育成として、お子様との関りだけでなく、保護者様や通園、通学先の先生方とも良好な関係性を築ける人材の育成していきたいと思います。
2	弊社の児童発達支援或いは、放課後等デイサービスをご利用されている方のみでの訪問支援を実施していることが挙げられます。	このことに関しては弱みとしては捉えずに、弊社を普段から必要とされている方に寄り添った結果として考えています。	弊社の児童発達支援或いは、放課後等デイサービスを普段からご利用されているからこそ、部署間での連携が取りやすく、支援の質を落とさず、方向性も統一できると考えています。
3			

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名	SORATO (UMIE) いなみ第二教室 ※BLOOMいなみ	公表日	2025年12月26日				
		利用児童数	2025年12月26日	回収数	12名		
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	91.7% (11人)			8.3% (1人)	実際の現場を見ていないので分からな い。	基本的に、訪問先にある教具や教材を使用しながら対応できていますが、お子様の様子や訪問先での依頼によっては、事前にその子に合った教具や教材を準備しています。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	100% (12人)					相談室や会議室を事業所内で完備していますので、他部署と使用場所が被らないように且つ、プライバシーに配慮した環境を整備しています。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	100% (12人)				契約時に説明がありました。	問い合わせを頂いた際やご契約時に、事業の目的を説明できるようにしています。 事業の目的また、訪問先にも事業の目的等を説明しています。
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	100% (12人)					訪問日や時間などは、訪問先のカリキュラムや授業の時間、お子様の様子に合わせて適宜相談しながら決定できるようにしています。
適切な支援の提供	5 子どもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	91.7% (11人)	8.3% (1人)				基準通りの配置をして、支援の質を担保できるようになります。
	6 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100% (12人)					お子様やご家族様との縁を感じています。今後も引き続き、お子様にもご家族様にも安心していただけるよう支援を心がけていきたいと思います。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、お子様の通園、通学先と事業所との支援の統一ができるよう、そしてお子様が集団生活に入っているような手立てを考えながら計画を作成していきたいと思います。
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、事前に保護者様との聞き取りで得た通園、通学先での様子や担当者からの情報や意向も踏まえて、計画を作成できるように心がけていきたいと思います。
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、お子様の特性も考慮しながら、具体的な支援内容を設定できるようにしていきたいと思います。
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、計画は職員間で適宜共有し、その計画に沿った支援ができるようにしていきたいと思います。
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、事前に訪問先施設へ日時を相談しながら、カリキュラムや授業の妨げにならないよう配慮していきたいと思います。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100% (12人)				契約時に丁寧に教えてもらいました。	今後も引き続き、丁寧な説明を心がけていきたいと思います。特にご利用料金に関する地域区分による1単位当たりの単価も踏まえて、具体的な計算例を用いた説明を続けていきたいと思います。
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100% (12人)				契約時に丁寧に教えてもらいました。	できる限り対面で説明ができるようにしています。時間の都合上、対面が難しい場合は一旦持ち帰ってもらい、熟読していただきから同意を得られるようにしています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	75% (9人)	8.3% (1人)		16.7% (2人)	保護者向け研修の案内はあったのですが、参加できていないので…	今後も引き続き、外部の講師を招いて保護者様も交えた研修会を3ヶ月に1回ほどの頻度で実施できるようにしたいと思います。その際に、保護者様同士で交流できるような場の設立もしていきます。
	15 必要なときに子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができると思っていますか。	100% (12人)					今後も引き続き、家族支援加算としての面談の場の設定に限らず、電話やメールなどでも情報共有ができるようになります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100% (12人)				いつも相談に乗ってくれています。	今後も引き続き、保護者様の悩みが少しでも解決に向かうよう、持っている知識や自分の経験などを駆使して、様々な視点からアドバイスができるようにしていきたいと思います。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、ご家族様や訪問先の先生方とも連携を取りながら、お互いに共通理解を持つ支援ができるようにしていきたいと思います。
	18 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100% (12人)					今後も引き続き、お子様やご家族様からの相談や申し入れだけでなく、相談支援専門員の方にも対応の体制などについて周知・説明が継続できるようにしていきたいと思います。
	19 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、お子様や保護者様との意思の疎通や情報伝達ができるように、そしてその配慮ができるようにしていきたいと思います。

	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、訪問先施設からの相談に応じ、助言や支援を続けながらも、事業所側からの相談を訪問先施設にも投げかけて、課題解決や支援の統一が図れるようにしていきたいと思います。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、訪問支援終了後に先生方と振り返りをする場を設定し、その際に支援の内容について話し合いかができるよう調整していきたいと思います。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	100% (12人)				いつも細かく教えてくれています。	今後も引き続き、情景が浮かびやすいように、可能な限り細かく記録を取り、伝達できるようにしていきたいと思います。
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	33.3% (4人)	25.1% (3人)	8.3% (1人)	33.3% (4人)	Instagramを見たことが無いので…学校での他の生徒のプライバシーもあるので、難しいのでは、と思う。	訪問先での他児のプライバシー保護の観点から、Instagramなどを単独で活用していませんが、連絡体制や自己評価結果などは、今後も引き続き、ホームページやメールなどで発信していきます。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100% (12人)					今後も引き続き、書類関係は鍵付きの書庫にて保管し、退勤時に毎回施錠していきます。USBの事業所外への持ち出しにも控え、個人情報は漏洩の無いよう留意していきます。
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	91.7% (11人)	8.3% (1人)				今後も引き続き、訪問先施設と連絡先を交換、確認しながら、常に連携や実践できるような体制を整えておきたいと思います。
満足度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	91.7% (11人)	8.3% (1人)				今後も引き続き、お子様の安全を確保したうえで支援を行えるようにしていきたいと思います。
	27	こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	100% (12人)				次はいつ来てくれるのか、楽しみにしています。	今後も引き続き、お子様にも安心感を持っていただけるような支援を心がけていきたいと思います。
	28	事業所の支援に満足していますか。	100% (12人)					今後も引き続き、お子様の様子を可能な限り細かく観察していく、新たな発見や成長していることなど、プラスになっている事を中心に保護者様にも伝えできるようにしていきたいと思います。

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日

2025年12月26日

SORATO(UMIE)いなみ第二教室 ※BLOOMいなみ

利用児童数

2025年12月26日 回収数 6件

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	100% (6件)			いつも分かりやすく、丁寧に説明してもらっています。 園でもできそうなことを一緒に考えててくれています。	カリキュラムや授業の邪魔にならないようにしながらも、お子様に支援が必要な場面では出来る限り対応し、その詳細を今後も先生方にお伝えしていきたいと思います。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	100% (6件)			大変満足です。	お子様が集団生活に少しでも入って行けるよう、いくつかの方法を考えながら、トライ＆エラーの気持ちを持って、今後もその子に合った方法を探れるようにしていきます。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	83.3% (5件)	16.7% (1件)		その場で解決が難しいケースもある。 毎回質問には丁寧に答えてもらっています。	質問に対しては何かしらの回答ができるように意識しています。今後も様々な成功例をお伝えできるようにしていきたいと思います。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	100% (6件)			いただいたアドバイスを参考にしながらアプローチを変えてみると、できることが増えてきたように思います。	自分の経験や成功例を踏まえて、先生方と共に認識が持てるように今後もやっていきたいと思います。
5	事業所からの支援に満足していますか。	100% (6件)			大変満足です。	今後も先生方の対応方法をこちらも学ばせていただき、通園先、通学先で取り入れている支援方法を事業所側にも伝えられるようにしていきたいと思います。
その他のご意見				ご意見を踏まえた対応		
訪問に来てくださった日は、一人の補助員としてクラスに入っていただき、時間いっぱいまで支援が必要な児童に寄り添ってくださるので、とても助かっています。 クラス内で使える教材を作成・提供してくださって、とてもありがとうございます。				訪問先におけるクラスでの活動や先生方のお邪魔にならないように配慮しつつ、必要とされているところでしっかりと期待に応えられるようにしていきたいと思います。 教材に関しては、ベースは支援が必要なお子様ではありますが、クラス全体の年齢層や発達度合いを考えながら、その教材をきっかけに集団生活の輪に入していくようなものを考案し、情報提供していきたいと思います。		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	SORATO (UMIE) いなみ第二教室 ※BLOOMいなみ
------	---------------------------------

公表日 2025年12月26日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
環境制整運営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	100% (2人)		基本的には訪問先にて使用されている教具教材を使用して対応しています。 必要に応じて、その子にあった教材を作成し、訪問先に提供しています。	今後も課題や改善すべき点が見つかれば、その都度適切な教具教材を準備していきます。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	100% (2人)		現時点では適切であると判断しています。	今後、利用希望者数が増加すれば、その人数に伴って職員の配置数を検討していきます。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100% (2人)		障害児通所施設支援システム「メイプル日誌Ⅲ」を導入し、業務改善・業務の効率化に努めています。	引き続き、業務の効率化に努めたいと思います。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100% (2人)		年に1回の評価表だけでなく、家族支援加算など保護者との面談からも、保護者からの意向などを聞き、事業所内で共有ができるようにしています。	引き続き、業務改善に努めたいと思います。
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100% (2人)		朝礼後にはミーティングをする場を設定しているほか、定期的に職員面談や管理者会議の場を設定して、意見の共有ができるようにしています。	引き続き、業務改善に努めたいと思います。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100% (2人)	第三者評価はまだ取り入れていません。	現時点では、第三者評価制度の活用は考えておりません。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100% (2人)		研修は各自メールやFAXでの案内で確認しています。また、毎月3~4本ほどの動画研修を実施し、資質の向上に努めています。	引き続き、内部研修だけでなく、外部での研修やオンラインでの研修を活用できるように努めたいと考えています。
	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	100% (2人)		保護者が記載した相談交付票や、送迎時や出缺、電話等で得た直近の状況に加えて、相談員からの計画書等から課題を整理し、お子様の通園、通学先での支援方法と事業所での支援方法を統一できるような計画を作成しています。	引き続き、双方での支援の統一ができるよう、そしてお子様が集団生活に入りやすい手立てを考えながら計画を作成していきたいと思います。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100% (2人)		計画作成時は訪問支援員も一緒に検討し、共通理解の下でお子様にとって必要な支援を計画できるようにしています。	引き続き、計画作成時には訪問支援員も一緒に内容を検討していきたいと思います。
適切な支援の提供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	100% (2人)		事前に保護者との聞き取りで得た通園、通学先での様子や担当者からの情報や意向も踏まえて、計画を作成するようにしています。	引き続き、計画作成時には訪問先施設の担当者等とも連携を取りながら、お子様に合った計画を作成できるようにしていきたいと思います。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100% (2人)		計画作成時には、職員間で共有する場を設定し、その計画に沿った支援を心がけています。	引き続き、計画作成時には職員間で共有する場を設定し、その計画に沿った支援ができるようにしていきたいと思います。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100% (2人)		弊社で導入している「メイプル日誌Ⅲ」のアセスメントツールを使用し、確認をしています。	引き続き、「メイプル日誌Ⅲ」のツールを使用して、適切なアセスメントができるようにしていきたいと思います。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	100% (2人)		お子様の特性も考慮しながら、具体的な支援内容を設定できるように心がけています。	引き続き、お子様の特性も考慮しながら、具体的な支援内容を設定できるようにしていきたいと思います。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100% (2人)		計画は職員間で適宜共有し、その計画に沿った支援を心がけています。	引き続き、計画は職員間で適宜共有し、その計画に沿った支援ができるようにしていきたいと思います。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100% (2人)		支援を開始する前には一度支援の内容などを確認できるようにしています。	引き続き、支援を開始する前には一度支援の内容などを確認できるようにしていきたいと思います。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100% (2人)		支援終了後には、での口に行つた支援の振り返りを行い、そこでの気付き等も記録に残して情報共有をしています。 また、その記録をそのお子様が通所している事業所の職員にも届けます。	引き続き、支援の振り返りや気付き等を記録に残し、他の部署の職員にもそれらの情報を共有できるようにしていきたいと思います。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	100% (2人)		訪問先の理念や支援手法を尊重しつつ、お子様が普段ご利用されている事業所で困っている事、訪問先の先生方が困っている事等も、お互いに共有し合ながら、支援の統一を図っています。	引き続き、訪問先の理念や支援手法を尊重した支援ができるようにしていきたいと思います。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	100% (2人)		毎回こまめに記録を取るように意識し、その時の支援で上手くいった事やそうでなかった事も含めて、次回への改善に繋げています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100% (2人)		訪問時には、担当の先生方と一緒に振り返りをする時間を作り、訪問先の方針や先生方の意向も確認しながら実施しています。	引き続き、継続していきたいと思います。

関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100% (2人)		会議の場には、可能な限り訪問支援員が参加できるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	21 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100% (2人)		訪問先との連携においては、支援の方向性を統一できるように、情報共有する場を作っています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	22 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100% (2人)		開業して間もない事業なので、まだそういう事例は無いが、今後機会があれば参加できるようにしていきたいと思います。	次年度以降は、そういう機会に立ち会う場面が想定されますが、その機会があれば参加できるようにしていきたいと思います。
	23 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100% (2人)		事業所内で年間の予算を決めて、その予算内で外部研修を受ける機会を設けている他、事業所内での研修も適宜実施しています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	24 (自立支援)協議会子こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	50% (1人)	50% (1人)	スケジュールの都合が合えば参加できるようにしていますが、難しい場合は併設している他部署の職員に出席可能か調整してもらい、そこで知り得た情報は共有できるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	25 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100% (2人)		訪問支援修了後には、保護者様と日程調整して訪問時の様子やその時の支援内容の他、最近のご家庭での様子、保護者様の悩みなど踏まえて、共通理解を持てるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	26 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100% (2人)		外部の講師を招いて保護者様もえた研修会を3ヶ月に1回ほどの頻度で実施しています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	27 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100% (2人)		ご契約時に、特に重要なところは計算例などを用いた説明を心がけています。	引き続き、継続していきたいと思います。
保護者等への説明等	28 訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	100% (2人)		担任の先生、支援の先生だけでなく、園長先生やコーディネーターの先生、教頭先生、校長先生など、様々な先生方も事業の趣旨や訪問支援の目的等をお伝えしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	29 保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100% (2人)		事前にお問い合わせを頂いた際に意向を確認したり、相談支援専門員の方を通じて確認したり、できる限り機会を設定できるように心がけています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	30 「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	100% (2人)		できる限り対面で説明ができるようにしています。時間の都合上、対面が難しい場合は一旦持ち帰って頂いて熟読して頂いてから同意を得られるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	31 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100% (2人)		訪問支援終了後には、家族支援加算Ⅰとして、保護者様と日程調整して訪問時の様子やその時の支援内容をお伝えするだけでなく、最近のご家庭での様子をお聞きしたり、保護者様の悩みなどに対しての助言を心がけています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	32 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100% (2人)		3ヶ月に1回実施している研修会で、保護者様同士で交流できる場を適宜設定しています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	33 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100% (2人)		相談や申入れの連絡が入った場合は、できるだけ最短の日程でスケジュール調整できるように心がけています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	34 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	50% (1人)	50% (1人)	訪問日時が決定した場合は、その日程を保護者様にもメールやメイル日誌Ⅲでのリマインダーメールを活用しながら発信しています。	訪問先でのプライバシー保護の観点から、InstagramなどのSNSを単独で活用していないが、他部署では事業所内での活動の様子などを適宜発信しています。
	35 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100% (2人)		書類関係は鍵付きの書庫にて保管し、退勤時に毎回施錠しています。USBの持ち出しも控えていますので、十分留意していると思います。	引き続き、継続していきたいと思います。
	36 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100% (2人)		携帯電話やPCを用いたメール、電話など、保護者様にとって利便性の高い方法で情報共有できるようにしております。	引き続き、継続していきたいと思います。
	37 訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	100% (2人)		訪問支援終了後に、先生方と振り返りをする時間を設定しているので、その際に先生方への助言や支援も実施しています。	引き続き、継続していきたいと思います。
訪問先施設への説明等	38 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	100% (2人)		訪問支援終了後に、先生方と振り返りをする時間を設定しているので、その場をカンファレンスとしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	39 保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	100% (2人)		訪問支援終了後には、家族支援加算Ⅰとして、保護者様と日程調整して訪問時の様子やその時の支援内容をお伝えし、伸びてきているところ、課題として見えてきているところなども共有できるように心がけています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	40 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100% (2人)		お子様が他児との関わった際の記録は、「Aさん」などで表記し、個人情報の取り扱いに留意しています。	引き続き、継続していきたいと思います。

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	100% (2人)	訪問支援終了後に、先生方と振り返りをする時間を設定し、お子様や保護者様への支援の統一、共通認識を持てるように心がけています。	引き続き、継続していきたいと思います。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100% (2人)	各種マニュアルを作成し、事業所内にて保管、及び掲載できるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100% (2人)	安全管理には日々留意しながら支援を実施しています。特に避難訓練は、他部署と合同で目づ、同敷地内にある他店舗とも合同で半年に1回の通報・避難・消火訓練を実施し、各事業所でも定期的に訓練を実施しています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100% (2人)	メイブル日誌Ⅲを用いて、自事業所だけでなく他部署で併用しているお子様のヒヤリハットも共有できるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100% (2人)	事業所内研修で虐待に関する研修を実施する他、外部の研修に参加できるようにしています。	引き続き、継続していきたいと思います。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100% (2人)	身体拘束が必要な場面が現在は無いが、今後もしそういうった場面がある場合は、事前に十分説明して了解を得たうえで計画に記載していきたいと思います。	緊急性、非代替性、一時性、この3つの条件にまずは当てはまるのかどうか、十分に検討してから進められるようにしていきたいと思います。